

ペットとの共生推進協議会長 挨拶

【ペットの飼育で「面倒益」を得る】

ペットとの共生推進協議会

会長 赤津功一

お陰様で、「ペットとの共生推進協議会」活動も11年目を迎えております。これも、会員及び協賛頂く皆様のご理解とご支援の賜物であります。

①当協議会は、毎年秋には著名人をお招きし、ペットとの共生をテーマにしたシンポジウムを東大弥生講堂や、オンラインで開催しています。そして、春と秋のインターペット等ではブースを構えて冊子やチラシを配り、ペットとの共生の効用等を来場の皆様方にご紹介しています。

②わが国の家庭におけるペットとしては、犬・猫中心に語られることが多いですが、観賞魚・小鳥・昆虫・小動物・爬虫類などそれぞれに愛好者が多くいらっしゃるばかりでなく、これらの動物飼育に依ってペット飼育の良さに目覚め、犬・猫の飼育をはじめた方々も少なくありません。

そして、それぞれのペットが、我々家族の一員となる文化が浸透・定着して、久しいのです。

「ペットとの共生推進協議会」では、ペットを「経済価値」ではなく、一般のペット飼育者の視点、可愛い、癒されると言う「愛情価値」に立って、全てのペットを分け隔てなく取り扱っていきたくと考えております。

③私共の生活の中での「面倒益」について考えます。その面倒と言うのは、時間やお金であったり気遣いであったり、その方々のお立場での「面倒」があります。

例えば、登山、日曜大工、プラモデル、育てる園芸、そして「ペット」も未経験者、未飼育者から見れば、何か「面倒」に見える心理的な壁がありがちです。

ピース数の多い複雑なパズルを、四苦八苦考えて成しえた面倒の後に完成した感動や、山を登るための日頃の面倒な鍛錬を超え、登った後の感動や喜びは正に、その人達しか味わえない面倒と言う気持ちを乗り越えた「面倒益」そのものに他ならないのです。

ペットの飼育もそれぞれ程度は違っても、毎日の食事や排便・お留守番や散歩・病院等々、人間と変わらない「面倒」と思える事もあります。そして、その「面倒」と言う気持ちがあっても、

日々力強く成長してくれる喜びや、昨日とは異なった表情を見せてくれる楽しさが、すべてのペットと生活する人々に、その「面倒益」を与えてくれるのです。そしてその「面倒益」が人とペットの絆を強くしてくれていくのかもしれない。

④最後に、「ペットとの共生推進協議会」は、2010年11月に設立されました。私は、他の団体とも積極的に協力して、ペットの飼育者の視点に立ってペット文化の創造に努力を重ねていく所存です。

引き続き「ペットとの共生推進協議会」活動に、皆様からの応援と叱咤激励をお願いいたします。